

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	令和5年度第2回河内長野市行財政評価委員会
2 開催日時	令和6年1月16日(火) 14時00分～16時00分
3 開催場所	河内長野市役所 3階301会議室
4 会議の概要	(1) 第5次総合計画の各施策に対する外部評価について (2) その他
5 公開・非公開の別 (理由)	公開
6 傍聴人数	2名
7 問い合わせ先	(担当課名) 総合政策部 政策企画課 (内線332)
8 その他	

\*同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

## 令和4年度地方創生推進交付金事業評価・外部評価結果について

### 1. 外部評価の目的

---

市で実施した内部評価の妥当性を、専門的な見地や市民の目線から検証することで、客観性を確保するとともに、必要に応じて総合戦略の見直しや次年度の取組み内容への反映を行う。

### 2. 評価対象及び実施方法

---

令和4年度に実施した地方創生推進交付金事業「丘の生活拠点」（南花台）まちづくりモデル事業」及び「地域活性・交流ハブ拠点化事業」について、市で実施した内部評価に対し、河内長野市行財政評価委員会において外部評価を行った。

### 3. 評価方法

---

市内部で行った評価資料に基づき、事業の目標及び数値目標（KPI）を達成するために評価年度に実施した要素事業が効果的であったかとの観点で検証を行い、「**妥当**」、「**概ね妥当**」、「**要検討**」のいずれかに分類する。

### 4. 評価結果

---

別紙「令和4年度地方創生推進交付金事業評価・外部評価結果」のとおり

## 令和4年度地方創生推進交付金事業評価・外部評価結果

### ■事業の概要

事業名称	「丘の生活拠点」(南花台)まちづくりモデル事業
事業の目標	<p>人口減少・少子高齢化が急激に進む開発団地が連なる河内長野市南部において、それらの玄関口に位置する南花台を、周辺開発団地の生活を補完できるまちとして「丘の生活拠点」に位置付け、平成26年度より、「地域住民が住み慣れた場所で多世代と交流しながら、生きがいをもち、元気に暮らし続けることができるまちづくり」をコンセプトに『咲く南花台プロジェクト』を推進している。</p> <p>その間、地域活動拠点「コノミヤテラス」を中心に、買物応援や生活応援をはじめ、健康づくり、子育て支援、情報発信、南花台事業者の会の立ち上げなど、地域住民主体による地域課題解決につながる取組みを着実に実施してきた。</p> <p>こうした取組みを通じて、現在では多くの地域住民が多様な形でまちづくりに参画し、関西大学に加え他大学の参画も進むとともに、地域のスーパーコノミヤとの連携も年を追うごとに深まる中で、公民学によるお互いの信頼関係が高まり、地域の合意形成が図りやすくなるとともに、まちづくりの機運が非常に高まっている。</p> <p>「咲く南花台プロジェクト」をさらに推進し、自動運転による移動サービスを始め、新たな技術の導入による生活利便性の向上を図りながら、地域の公園やUR団地集約用地等の既存ストックを有効活用し、地域の魅力創出・活性化を図り、「暮らし続けられるまち」を形成しながら、高齢化に伴い自治会や地区福祉委員会など地域活動の担い手不足が課題となっているなかで、新たな担い手を発掘し、地域住民と事業者が連携した持続可能なまちづくりのモデルを構築する。</p>
全体の概要	<p>地域活動拠点「コノミヤテラス」を中心とした社会実験的活動の企画・実施及び活動の一環として、自動運転等未来技術を活用した地域の生活に機能する移動支援の構築を図る。また、UR集約型団地再生事業に係る多世代が交流できる公園（サッカースタジアムを含む）を整備することにより、地域住民の憩いの場や子どもの遊び場の創出、スポーツを通じた魅力あるまちづくりのモデルを構築する。あわせて、これらの事業について他の地域へ横展開を図り、河内長野市全体の地域活性化を生活利便性の向上につなげる。</p>
要素事業	「丘の生活拠点」(南花台)まちづくりモデル事業
令和4年度実施事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案事業総合企画調整</li> <li>・「総合研究会」など各プロジェクト会議の運営</li> <li>・地域活動拠点「コノミヤテラス」の運営及び自立化の推進</li> <li>・南花台モビリティ「クルクル」の取り組み推進</li> <li>・「咲く南花台プロジェクト横展開」としてイズミヤ河内長野店における地域活動拠点の運営推進</li> <li>・南花台モビリティ「クルクル」自動運転実証事業運行延伸</li> <li>・UR集約事業におけるサッカーチームと連携したまちづくりの推進</li> <li>・「コノテラ通信」発行など地域による情報発信</li> <li>・南花台ブランディング事業（ブランドロゴ・メッセージ制作）</li> </ul>

### ■市評価結果

評価区分(※1)	評価内容
①非常に効果的であった	<p>令和元年度に開始した南花台モビリティ「クルクル」については、コロナ禍でも利用者を延ばし、地域内移動支援としての効果を発揮できた。</p> <p>地域活動拠点である「コノミヤテラス」についても、コロナ禍の収束を見据えて地域活動を再開していき、地域住民主催の習い事などが再開された。</p> <p>また、UR集約跡地におけるサッカースタジアムを含む公園整備検討にあたり、地域住民代表や建築・ランドスケープ・ジェンダーなどの学識経験者で構成されたUR団地集約跡地活用に係る推進委員会を立ち上げ、公園整備における整備方針等を示した基本計画を策定するとともに、令和5年度に実施する設計業務の委託事業者の選定を行いながら、設計段階から地域の意見を幅広く集約することを目的とし、地域向けの公園整備に関するアンケート、住民説明会、ワークショップ等を開催した。</p> <p>あわせて、これまでの取り組みの広がりを受けて、交通不便地での電動カートをを用いた地域住民主体の運行が開始し、河内長野駅前前のイズミヤ4階における「イズミヤゆいテラス」も順調に利用者を伸ばすなど、事業の横展開も図ることができた。</p>

※1：評価事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

### ■委員会評価

評価区分(※2)	意見・コメント
①妥当	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル事業であることを、他の地域にどのように応用できるか、市民に納得・説得できる位置づけが必要。</li> <li>・コロナ禍における代理指標を導入すべきだったのでは。</li> <li>・KPIだけ見ると、あまり成績が良いように見えない。市民への発信が必要。</li> <li>・河内長野市民全体に対する取組の啓蒙があまりされていないのでは。</li> <li>・コロナ禍の影響もあり、実績値が1年遅れで出てきていることを踏まえると、評価は妥当であると感じる。</li> </ul>
評価内訳	
①妥当 3 ②概ね妥当 1 ③要検討 0	

※2：取組事業が事業の目標・KPI達成するために、「①妥当である」、「②概ね妥当である」、「③検討を要する」

## 令和4年度地方創生推進交付金事業評価・外部評価結果

### ■事業の概要

事業名称	地域活性・交流ハブ拠点化推進事業
事業の目標	<p>大阪南東部に位置する河内長野市は、都市部に近いにも関わらず、豊かな自然に囲まれ、多くの緑やきれいな水に恵まれた地域である。「ちかくて、ふかい奥河内」をキャッチフレーズに推進してきたイメージ戦略が一定の広がりを見せ、近年の観光入込客数の増加につながっている。</p> <p>また、「中世に出逢えるまち～千年にわたり護られてきた中世文化遺産の宝庫～」、「女人高野～女性とともに今に息づく女人高野～時を超え、時に合わせて見守り続ける癒しの聖地～」と「葛城修験～里人とともに守り伝える修験道はじまりの地～」の3つの「日本遺産」に認定され、それらを観光プロモーション等に活用している。</p> <p>さらに、コロナ禍の影響により、人々の働き方や居住地選択に変化が生じており、大阪市中心部から電車で30分程度の距離でありながら、豊かな自然を有する本市への関心が高まっている。</p> <p>本市の観光ハブ拠点として位置付けている道の駅「奥河内くろまろの郷」の周辺エリアには、JA大阪南農産物直売所「あすかてくるで」、林業総合センター「木根館」、府立花の文化園が併設され、エリア全体で観光誘客に取り組んでいる。</p> <p>これらのことから、本市最大の集客エリアである道の駅「奥河内くろまろの郷」を中核として、観光客・交流人口の増加を、地域内産業の活性化に結びつけ、商業、また地域資源である農業・林業の振興をめざす。また、本市が持つ豊かな自然、歴史・文化などまちの魅力を発掘・創出し、市民のまちへの愛着や誇りを育むとともに、市への良好なイメージの定着を進め、新規移住者の受け入れ体制の整備等を推進することにより、交流人口の拡大を定住人口の増加につなげ、にぎわいや活力に満ちたまちの創造をめざす。</p>
全体の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業、林業において、地域資源を活かしたブランド化を確立し、販路拡大につなげるとともに、磨きあげた資源を有機的に結び付け、さらなる市内循環を生み出すことで、地域内経済の活性化及び雇用の創出につなげる。</li> <li>・子育て世代が住みよいまちとするために、本市最大の集客施設である道の駅の「子育て応援」機能強化を行い、子育て世代に対応した地域活性・交流拠点整備を進める。(令和4・5年度事業)</li> </ul> <p>また、子育て世代を中心とした定住人口の確保を目的に、本市の良好なイメージの拡大を図るため、観光客(訪日外国人を含む)に直接届く観光プロモーションに取り組む。</p> <p>さらに、ポストコロナ期においても、子育て世代を中心とした市民や観光客が安心して集客と消費を高めることができるよう、観光MaaSを活用した事業を実施する。(令和5年度事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これらの取組みを、広く市民にも発信し、市民の地域資源への理解向上を図ることにより、市へのまちへの愛着や誇りを育み、定住促進につなげる。</li> </ul>
要素事業①	観光誘客促進事業
令和4年度実施事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かわちながの観光マップの作成</li> </ul> <p>本市の観光の魅力(歴史・日本遺産・自然等)について観光客等に分かりやすく解説し、市域全体を案内する観光マップを作成した。多言語対応(英語、中国語(簡体字)の2言語)を行い、アフターコロナ期に向けたインバウンド集客に活用できるマップとした。</p>

### ■市評価結果

評価区分(※1)	評価内容
①非常に効果的であった	<p>完成したマップは、道の駅や河内長野市観光案内所の来訪者に、日本遺産ガイドブックやハイキングマップなどの観光テーマ別に作成した既存のパンフレットと組み合わせる観光案内を行い、市内周遊を促している。</p> <p>また、インバウンドを含むさらなる誘客促進を図るため、市内の主要観光施設だけでなく、大阪観光局と連携し、大阪市内の観光案内所にも配架を依頼した。併せて、河内長野市観光ポータルサイトなどにマップデータを掲載し、WEBでの情報発信も行っている。また、今後はイベント等においても配布し、国内外からの一層の観光誘客に向け、積極的に活用していく予定である。</p> <p>このように、本マップは、今後の観光情報発信事業の中核となる資料として活用が図られている。</p>

※1：評価事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

### ■委員会評価

評価区分(※2)	意見・コメント
①妥当	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マップが有効であることは認めているが、観光客増加との因果関係の実証が必要。</li> <li>・ウェブの発信もしっかりやることで、相乗効果が期待される。</li> <li>・とても良いマップだと思う。</li> <li>・万博がチャンスと思う。</li> </ul>
評価内訳	
①妥当 4 ②概ね妥当 0 ③要検討 0	

※2：取組事業が事業の目標・KPI達成するために、「①妥当である」、「②概ね妥当である」、「③検討を要する」

要素事業②	木のある暮らし推進事業
令和4年度 実施事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おおさか河内材活用事業補助金</li> <li>・地元木材である「おおさか河内材」のブランド化を確立し、林産品の利用促進につなげることで、地域資源である林業の活性化を図り、雇用の創出につなげるため、民間事業者等によるおおさか河内材を活用した建物の新築や改修のうち、おおさか河内材活用のモデル事例となり、その魅力を市内外に広く発信することができる取組みを選定し、補助金により支援することで、市として戦略的におおさか河内材の魅力を発信し、利用拡大につなげていく。</li> <li>補助金額：おおさか河内材使用量（m<sup>3</sup>）×60千円～100千円（使用量による）</li> </ul>

### ■市評価結果

評価区分(※1)	評価内容
①非常に効果的であった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「おおさか河内材」の活用支援を行ったことで、50m<sup>3</sup>を超える材の使用量の確保ができた。また、おおさか河内材の木材供給量は令和3年度と比較して大幅に増加しているが、本補助金により使用料が増加したことが一因と考えられる。</li> <li>・補助金事業により、市内住宅等の木質化の後押しすることができた。</li> <li>・木材の搬出に係る支援と併せて行うことにより、効果的に林業振興を図ることができた。</li> </ul>

※1：評価事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

### ■委員会評価

評価区分(※2)	意見・コメント
②概ね妥当	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の工務店の協力を得られるような仕組みにしてほしい。</li> <li>・市外に「河内材」というブランドを発信しても良いのでは。</li> <li>・市外の人へのコマースが必要</li> <li>・森林組合が河内材の販売から建築まですべて行い、地元工務店のライバル社となってしまっている。地元工務店との役割分担により、地域全体での協力体制ができるよう考えるべき。</li> </ul>
評価内訳	
①妥当 0	
②概ね妥当 4	
③要検討 0	

※2：取組事業が事業の目標・KPI達成するために、「①妥当である」、「②概ね妥当である」、「③検討を要する」

要素事業③	産地ブランド力向上事業
令和4年度 実施事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改植、新植に係る苗木購入補助金</li> <li>・大阪府下有数の桃の産地である本市において、地元桃のブランド化を確立し、販路拡大等に繋げるとともに、道の駅において桃を活用した加工品の製造販売につなげるよう、市として戦略的に優良品種への改植・新植に対する支援を行う。</li> <li>・自立に向けては、JA、地元桃組合、道の駅、加工事業者等と連携を深め、桃の供給体制の強化や加工品製造販売等を通じ、補助金なくともブランド産品としての販路獲得を促す取り組みを進める。</li> <li>2団体 12名 87本 77,485円</li> </ul>

### ■市評価結果

評価区分(※1)	評価内容
②相当程度効果があった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業の実施により、地元桃のさらなるブランド化、販路拡大等に繋げるとともに、生産量の確保と産地の競争力の向上を図ることができた。</li> <li>・本事業の実施により、優良品種への改植・新植を促進し、直売所における品揃えの向上と、消費者ニーズに即した農産物の提供につながる事が期待される。</li> <li>・特定外来生物クビアカツヤカミキリに対する被害が顕著に増加傾向であり、その対策としても効果があった。</li> </ul>

※1：評価事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

### ■委員会評価

評価区分(※2)	意見・コメント
①妥当	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苗木を渡すだけでなく、他の形での支援もできないか。</li> <li>・もっと事業費をかけても良いのでは。</li> <li>・今後の課題は後継者不足、新しい担い手を育てていくことが重要。</li> <li>・小山田の桃の評判はよく耳にする。</li> </ul>
評価内訳	
①妥当 4	
②概ね妥当 0	
③要検討 0	

※2：取組事業が事業の目標・KPI達成するために、「①妥当である」、「②概ね妥当である」、「③検討を要する」

<b>要素事業④</b>	<b>世界かんがい施設遺産登録PR事業</b>
<b>令和4年度 実施事業内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界かんがい施設遺産登録PR事業</li> <li>令和3年11月に世界かんがい施設遺産に登録されました寺ヶ池・寺ヶ池水路について、パネル、パンフレット、幟の作成を行い、記念事業である基調講演、展示会、特別展を開催し、広く市民に周知し、PRを行う。また、市民の安全確保を図るため、現地の危険な箇所に入り立ち入りを控える看板の作成を行う。</li> </ul>

### ■市評価結果

<b>評価区分(※1)</b>	<b>評価内容</b>
<b>②相当程度効果があった</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>記念事業の基調講演、展示会、特別展を開催するために、パネル5枚、パンフレット4,000部を作成し、広く市民にPRすることができた。</li> <li>市内小、中学校にパンフレットの作成について周知し、5校の小学4年生にはパンフレットを配布し、総合学習の授業で寺ヶ池・寺ヶ池水路の地域の学習教材として活用できた。</li> </ul>

※1：評価事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

### ■委員会評価

<b>評価区分(※2)</b>	<b>意見・コメント</b>
<b>①妥当</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界かんがい施設遺産も含め、沢山ある河内長野の良さを、もっと宣伝してほしい。</li> <li>さらなる宣伝が必要。</li> <li>評価は妥当。さらにPRが必要。</li> <li>寺ヶ池周辺は綺麗になっており、評価は妥当である。</li> </ul>
<b>評価内訳</b>	
①妥当 4 ②概ね妥当 0 ③要検討 0	

※2：取組事業が事業の目標・KPI達成するために、「①妥当である」、「②概ね妥当である」、「③検討を要する」

<b>要素事業⑤</b>	<b>自転車の駅整備事業</b>
<b>令和4年度 実施事業内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電動サイクル充電機器の購入</li> <li>コロナ禍において、密を避ける地域の身近なアウトドア環境での観光の取り組み強化を図るべく、子育て世代を中心としたサイクリストをターゲットとした市内周遊のネットワーク化を促進することを目的に、道の駅及び観光案内所に、施設来訪者が利用できる電動サイクル用充電器を設置した。また、道の駅のレンタサイクル備品を拡充した。</li> <li>充電器               <ul style="list-style-type: none"> <li>パナソニック (NKJ075Z) 2台</li> <li>YAMAHA (X2P8210C) 2台</li> <li>※各施設に各1台ずつ配置</li> </ul> </li> <li>バッテリー               <ul style="list-style-type: none"> <li>パナソニック (NKY580B02) 5個</li> </ul> </li> </ul>

### ■市評価結果

<b>評価区分(※1)</b>	<b>評価内容</b>
<b>②相当程度効果があった</b>	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大をきっかけに、サイクリングやウォーキング、ハイキングなど、密を避けるアウトドアを楽しむ層が増加している。また、本市は起伏の多い地形であり、かつ市内を東西に結ぶ2次交通にも課題があることから、電動自転車を活用した観光周遊促進は、これらの課題解決に寄与していると考えられる。</p>

※1：評価事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

### ■委員会評価

<b>評価区分(※2)</b>	<b>意見・コメント</b>
<b>①妥当</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自転車のまち河内長野」で売り出してはどうか。</li> <li>自転車の充実を維持していくことが重要。</li> <li>河内長野は起伏が激しいので、電動自転車は必要である。</li> <li>自転車で河内長野をまわるのは気持ちよい。応援している。</li> </ul>
<b>評価内訳</b>	
①妥当 4 ②概ね妥当 0 ③要検討 0	

※2：取組事業が事業の目標・KPI達成するために、「①妥当である」、「②概ね妥当である」、「③検討を要する」

<b>要素事業⑥</b>	<b>道の駅「子育て応援」機能強化事業</b>
<b>令和4年度 実施事業内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅優先駐車スペースからトイレ棟への屋根設置に係る設計業務</li> <li>・地域の子育て世代を応援するとともに、子育て世代の道路利用者への休憩機能の補完を行うことを目的に、道の駅奥河内くろまろの郷の優先駐車スペース（障がい者・高齢者・妊婦など）から施設トイレ棟への経路上に設置する屋根の設計を行った。</li> </ul>

### ■市評価結果

評価区分(※1)	評価内容
<b>②相当程度効果があった</b>	<p>優先駐車スペース（障がい者・高齢者・妊婦など）から施設への屋根の設置を行うことは、KPIとして設定している「道の駅奥河内くろまろの郷の年間売上高」の増加、「『子育てのしやすさ』に関する市民満足度」及び「社会動態の転入者/転出者の率」の向上に寄与するものとする。</p> <p>令和4年度の事業においては、耐久性や安全面を考慮するとともに、施設の外観イメージに調和するよう屋根の仕様を検討した。</p>

※1：評価事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

### ■委員会評価

評価区分(※2)	意見・コメント
<b>①妥当</b>	<p style="text-align: center;">&lt;全会一致で妥当&gt;</p>
<b>評価内訳</b>	
①妥当      4 ②概ね妥当   0 ③要検討      0	

※2：取組事業が事業の目標・KPI達成するために、「①妥当である」、「②概ね妥当である」、「③検討を要する」

# 令和4年度まち・ひと・しごと創生寄附活用事業評価・外部評価結果について

## 1. 外部評価の目的

---

市で実施した内部評価の妥当性を、専門的な見地や市民の目線から検証することで、客観性を確保するとともに、必要に応じて総合戦略の見直しや次年度の取組み内容への反映を行う。

## 2. 評価対象及び実施方法

---

令和4年度に実施した「まち・ひと・しごと創生寄附活用事業」について、市で実施した内部評価に対し、河内長野市行財政評価委員会において外部評価を行った。

## 3. 評価方法

---

市内部で行った評価資料に基づき、事業の目標を達成するために評価年度に実施した取り組みが効果的であったか、および今後の方向性が適切かどうかの観点で検証を行い、「**妥当**」、「**概ね妥当**」、「**要検討**」のいずれかに分類する。

## 4. 評価結果

---

別紙「令和4年度まち・ひと・しごと創生寄附活用事業評価・外部評価結果」のとおり



## 令和4年度まち・ひと・しごと創生寄附活用事業評価・外部評価結果

### ■事業の概要

事業名称	河内長野市まち・ひと・しごと創生寄附活用事業
事業の目標・概要	<p>【目標】 企業版ふるさと納税を活用した事業を実施することにより、河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進を図る。</p> <p>【寄附を活用して実施した事業】</p> <p><b>1. サッカーチームと連携したまちの魅力向上事業</b> 市内南花台地区では、少子高齢化の進む開発団地の再生モデル構築として、「南花台スマートエイジング・シティ 団地再生モデル事業」に取り組んでいる。 この一環として、同地区内でUR都市機構が進める集約型団地再生事業により生まれる跡地に女子サッカーチームの本拠地を誘致し、チームと連携することによる地域の活性化を図る。</p> <p><b>2. 林道整備事業</b> 市管理の基幹林道であり、地区林業の基幹であるとともに、緊急輸送路としての役割も担っている林道千石谷線外1線の整備を実施する。</p> <p><b>3. 公共交通推進事業</b> 本市と包括連携協定を締結している南海電気鉄道（株）との連携により企業版ふるさと納税（人材派遣型）を受入れ、公共交通推進に係る各種業務を推進し、地域の実態に応じた交通ネットワークの整備や、市民の生活利便性確保を図る。</p>

### ■市評価結果(各要素事業別)

要素事業①	サッカーチームと連携したまちの魅力向上事業
評価区分(※1)	評価内容
②相当程度効果があった	<p>○企業と連携することにより、市の実質負担なくハード整備が実施可能となる。</p> <p>○企業版ふるさと納税を活用することで、多くの企業と接点生まれ、今後のプロジェクトにおける参画が期待できる。</p> <p>○企業版ふるさと納税を活用した取り組みとして注目度が高く、事業自体の周知に貢献している。</p> <p>※令和5年度までは、寄附金の事業費への充当（サッカースタジアム建設）は行われないことから、上記評価は、サッカースタジアム建設についてではなく、「企業版ふるさと納税の活用」についての効果を記載しています。</p>
要素事業②	林道整備事業
評価区分(※1)	評価内容
②相当程度効果があった	<p>○当初予算上の千石谷舗装予定延長は70mであったところ、寄附金の活用により2.5mの量的充実が図れた。</p> <p>○寄附事業者は、林業振興に意識の高い事業者であり、同社と協議し、思いを反映した寄附金の活用を行ったことで、同社との継続的な連携にも繋がっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度も、同社より同様の趣旨・金額で寄附を受け入れ</li> <li>・附属機関「かわちながの森林プラン推進協議会」に同社代表が委員に就任（令和4年度より）</li> <li>・同社については、森林整備地域活動支援事業補助金により森林経営計画策定に向けて取り組みがなされた。</li> </ul>
要素事業③	公共交通推進事業
評価区分(※1)	評価内容
①非常に効果的であった	<p>○モックルMaaSの実装、運用については、庁内関係部局との協議のみならず、交通事業者や協力事業者との調整が必要であり、交通事業者からの派遣人材知識やノウハウを活用することができて、非常に効果的であった。</p> <p>○地域公共交通計画については、交通事業者としての知識やノウハウを活用することができて、非常に効果的であった。</p> <p>○公共交通ネットワークの再構築について、R4年度に実施した石見川地区の地域の検討会や、スクールバスと乗合タクシーの一体的な運用をするスキーム作りにおいて、派遣人材の持つ、行政とは異なる知見を活かし、事業を進めることができた。</p>

※1：評価事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

## ■委員会評価(※2)

評価区分(※3)	意見・コメント
①妥当	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価は妥当で異存はない。</li> <li>・専門技術を持った人材を、企業から市へ派遣してもらうのは良いこと。</li> <li>・サッカーチームのプロジェクトによって、人口が増えるかもしれない。</li> <li>・サッカースタジアムについては、今後色々なところとの連携や発信が大事になる。ぜひ成功へ向けて欲しい。</li> </ul>
評価内訳	
①妥当 4 ②概ね妥当 0 ③要検討 0	

※2：委員会評価は、令和4年度まち・ひと・しごと創生寄附活用事業全体に対する評価

※3：取組事業が事業の目標・KPI達成するために、「①妥当である」、「②概ね妥当である」、「③検討を要する」

## 令和4年度地方創生推進交付金事業の評価について

### 1. 河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

少子・高齢化に的確に対応し、人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への一極集中を是正し、活力ある社会を維持していくため、「まち・ひと・しごと創生法」が制定されたことを受けて、本市では、国の長期ビジョン及び総合戦略を勘案し、本市人口の現状と将来の展望を提示する「まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」及び地域の実情に応じた5か年の施策の方向を提示し、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環の確立と、その好循環を支える「まち」の活性化を図る「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下、「総合戦略」）を策定しています。

総合戦略の取り組みのうち、令和4年度は、2事業について国より地方創生推進交付金の交付を受け、事業を実施しています。

### 2. 事業の概要

#### (1) 「丘の生活拠点」（南花台）まちづくりモデル事業

##### ①背景

本市は、昭和50年前後に開発団地が数多く整備され、住宅購入適齢期の住民が同時期に転入したことから、特に急激な高齢化の進行が見られ地域の活力の低下が現れ、地域の拠点となるスーパーの撤退が相次ぐなど、生活利便性の低下が顕著に現れています。そのため、生活の利便性を補完できる生活拠点とそれらの地域間の連携を創出し、それぞれの特色を生かしたまちづくりの実現が急務となっています。第5次総合計画では、特に開発団地が連なる市南部地域の玄関口に位置し、一定の生活利便施設が整う南花台を「丘の生活拠点」として位置付け、開発団地の再生モデルの構築と周辺地域の生活拠点化を図るため、「多世代の住民が、生きがいを持ちながら、元気に住み続けることができるまちづくりを目指した『咲く南花台プロジェクト』」を実践しています。

##### ②実施内容

令和4年度は、引き続き「咲く南花台プロジェクト」を推進しながら、自動運転による移動サービスの運行エリア拡大による利便性・安全性の向上に取り組むとともに、UR集約型団地再生事業による跡地における、子どもが安心できる遊び場や多世代交流機能を備えた丘の生活拠点に相応しい公園整備の検討にあたり、地域住民代表や学識経験者で構成された「UR団地集約跡地活用に係る推進委員会」を立ち上げ、公園整備における整備方針等を示した基本計画を策定したほか、住民説明会、ワークショップ等を開催しました。また、地域住民と事業者が連携したまちづくり活動を継続できる仕組みの横展開に取り組ましました。

## (2) 地域活性・交流ハブ拠点化推進事業

### ①背景

本市では、人口減少、少子高齢化が進行しており、子育て世代を中心とした定住人口の確保が最大の課題となっています。また、転出が増加しており、要因として小売り事業者をはじめとした事業所数の減少など市内での就業場所の減少があげられています。市内産業及びまちの魅力の減退を回避するため、市域の7割を森林が占める豊かな自然、3つの「日本遺産」の歴史・文化など、市への良好なイメージの定着を進め、観光産業の創出等を通じ定住人口と交流人口の増加を図るため、観光地域づくりの推進に取り組んでいます。その結果、観光入込客数は年々増加に転じ、観光によるまちづくりは進んできていますが、今後は、地域内産業の活性化や雇用の創出につなげるとともに、市民の愛着の醸成、また、子育て世代を中心とした転入促進につなげていく必要があります。

### ②実施内容

本市最大の集客エリアである道の駅「奥河内くろまろの郷」を中核として、観光客・交流人口の増加を、地域内産業の活性化に結びつけ、商業、また地域資源である農業・林業の振興をめざします。また、本市が持つ豊かな自然、歴史・文化などまちの魅力を発掘・創出し、市民のまちへの愛着や誇りを育むとともに、市への良好なイメージの定着を進め、新規移住者の受け入れ体制の整備等を推進することにより、交流人口の拡大を定住人口の増加につなげ、にぎわいや活力に満ちたまちの創造をめざします。

令和4年度は、かわちながの観光マップの作成や、令和3年11月に世界かんがい施設遺産に登録された寺ヶ池・寺ヶ池水路のPR、道の駅及び観光案内所への電動サイクル用充電器の設置により、市内外からの観光誘客を促進するとともに、子育て世代を中心とした多様な施設利用者の利便性を高めるため、道の駅「奥河内くろまろの郷」の優先駐車スペースから施設への屋根設置に係る設計を行いました。また、地域資源である「おおさか河内材」や地元桃のブランド化を確立し、販路拡大につなげ、地域内経済の活性化及び雇用の創出につなげるため、各種補助金制度を整備しました。

### 3. 評価の概要

今回の行財政評価委員会では、総合戦略の主な取り組みとして、令和4年度に地方創生推進交付金の交付を受けた事業について、市で実施した内部評価に対し、外部の視点で評価していただきます。

評価対象事業	評価資料（送付資料）
要素事業	
「丘の生活拠点」（南花台）まちづくりモデル事業	○総合シート
（要素事業1） 「丘の生活拠点」（南花台）まちづくりモデル事業	○評価シート ○（参考資料）令和4年度地方創生推進交付金の実績概要
地域活性・交流ハブ拠点化推進事業	○総合シート
（要素事業1） 観光誘客促進事業	○評価シート
（要素事業2） 木のある暮らし推進事業	○評価シート
（要素事業3） 産地ブランド力向上事業	○評価シート
（要素事業4） 世界かんがい施設遺産登録PR事業	○評価シート
（要素事業5） 自転車の駅整備事業	○評価シート
（要素事業6） 道の駅「子育て応援」機能強化事業	○評価シート ○（参考資料）令和5年度デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）の実施計画書における経費増額変更の承認について

## 4. 評価の方法

「総合シート」・「評価シート」及び添付資料により、事業の内容を確認いただき、「総合シート」に記載の事業の目標及び数値目標（KPI）を達成するために、評価年度に実施した要素事業が効果的であったかとの観点から、「評価シート」の下記部分について評価をお願いします。

【委員会評価】①～③を選択してください。

【評価等に対する意見】事業に関するご意見等を記入してください。

【「評価シート」・委員会評価 欄】

	【委員会評価】 下記から選択して下さい。	【評価等に対する意見】
委員会評価	取組事業が評価交付金事業の目標・KPI達成するために ①妥当である ②概ね妥当である ③検討を要する	

### <参考：評価シートについて>

#### ■総合シート

交付金事業ごとに、事業全体の目標や数値目標（KPI）等について記載しています。

事業名称等	交付金事業の名称、事業全体の目標及び概要を記載しています。
数値目標及び実績	事業全体の数値目標（KPI）と、その実績を記載しています。また、指標の状況及び今後の事業全体の考え方について記載しています。

#### ■評価シート

事業を構成する要素事業ごとに、具体的な事業の内容や行政の内部評価、今後の課題等について記載しています。

実施事業	評価年度に実施した具体的な取り組みの内容について記載しています。また、その成果について、できる限り具体的な数値で表せるよう、参考指標を示しています。
担当者評価	評価年度に実施した取り組みが、交付金事業の目標及びKPIを達成するために効果があったかとの視点より事業担当部署が評価を行い、その評価内容についてコメントを記載しています。
改善	今後の課題や取り組みの方向性について記載しています。
委員会評価	本委員会にて評価いただきたい箇所です。 取組事業が事業の目標・KPI達成するために「①妥当である」、「②概ね妥当である」、「③検討を要する」より選択してください。

事業名称	「丘の生活拠点」(南花台)まちづくりモデル事業(事業期間:令和2年度~令和4年度)
事業の目標	<p>人口減少・少子高齢化が急激に進む開発団地が連なる河内長野市南部において、それらの玄関口に位置する南花台を、周辺開発団地の生活を補完できるまちとして「丘の生活拠点」に位置付け、平成26年度より、「地域住民が住み慣れた場所で多世代と交流しながら、生きがいを持ち、元気に暮らし続けることができるまちづくり」をコンセプトに『咲く南花台プロジェクト』を推進している。</p> <p>その間、地域活動拠点「コノミヤテラス」を中心に、買物応援や生活応援をはじめ、健康づくり、子育て支援、情報発信、南花台事業者の会の立ち上げなど、地域住民主体による地域課題解決につながる取組みを着実に実施してきた。こうした取組みを通じて、現在では多くの地域住民が多様な形でまちづくりに参画し、関西大学に加え他大学の参画も進むとともに、地域のスーパー・コノミヤとの連携も年を追うごとに深まる中で、公民学によるお互いの信頼関係が高まり、地域の合意形成が図りやすくなるとともに、まちづくりの機運が非常に高まっている。</p> <p>「咲く南花台プロジェクト」をさらに推進し、自動運転による移動サービスを始め、新たな技術の導入による生活利便性の向上を図りながら、地域の公園やUR団地集約用地等の既存ストックを有効活用し、地域の魅力創出・活性化を図り、「暮らし続けられるまち」を形成しながら、高齢化に伴い自治会や地区福祉委員会など地域活動の担い手不足が課題となっているなかで、新たな担い手を発掘し、地域住民と事業者が連携した持続可能なまちづくりのモデルを構築する。</p>
全体の概要	<p>地域活動拠点「コノミヤテラス」を中心とした社会実験的活動の企画・実施及び活動の一環として、自動運転等未来技術を活用した地域の生活に機能する移動支援の構築を図る。また、UR集約型団地再生事業に係る多世代が交流できる公園(サッカースタジアムを含む)を整備することにより、地域住民の憩いの場や子どもの遊び場の創出、スポーツを通じた魅力あるまちづくりのモデルを構築する。あわせて、これらの事業について他の地域へ横展開を図り、河内長野市全体の地域活性化を生活利便性の向上につなげる。</p>

【数値目標(KPI)及び実績】

項目		事業開始前	令和2年度 (増加分)	令和3年度 (増加分)	令和4年度 (増加分)	累計
南花台モビリティ(自動運転)の運行日一日当たり乗客数【人/日】	目標	0	20	30	30	80
	実績		0	3	6	9
南花台モビリティ(自動運転)の運営スタッフ数【人】	目標	0	10	10	20	40
	実績		3	12	43	58
南花台地区における年少人口(0~14歳)【人】	目標	500	10	10	15	35
	実績		1	-27	-10	-36
横展開地域における活動参加者数【人】	目標	0	50	100	200	350
	実績		0	72	86	158

<p>令和4年度の指標の状況及び事業への反映の考え方</p>	<p>・自動運転技術を活用した移動サービスの乗客数を把握することにより、外出する機会の創出や、地域活性化につながっているかについて、事業の直接的な効果を計測する。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症による利用控えにより、利用者増加施策が困難であったものの、年度末にルートを延伸したことにより、利用者数が20人/日程度に急伸している。</p> <p>・地域課題の解決には地域住民が主体となり取り組むことが必要であり、取組みに参加する運営スタッフ数を把握することにより、地域の移動サービスを支える取組みへの参画状況が確認できることから、事業の直接的な効果を計測できる。南花台モビリティ「クルクル」の運行は令和元年度より実施しているが、未来技術による地域課題の解決を主題としているため、自動運転に関わるスタッフのみを指標としていたが、令和4年度の地域住民による会議により移動支援に関わる全メンバーで自動運転に関わることとしたため、KPI達成に繋がった。</p> <p>・高齢化が進行するまちの再生という課題を解決するために、子育て世帯に魅力あるまちとなっているか、多世代が暮らしやすいまちであるかどうかについて、年少人口を把握することにより、事業の効果を計測できる。令和4年度においては、河内長野市全体では年少人口が減少している中、目標値は達成できていないものの、河内長野市全体の減少比率に比べると抑えられていることから、一定の評価ができる。</p> <table border="1" data-bbox="529 1809 1283 1899"> <thead> <tr> <th></th> <th>事業開始前</th> <th>2022年度末</th> <th>減少</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>河内長野市年少人口比率</td> <td>9.5%</td> <td>9.0%</td> <td>0.5ポイント減</td> </tr> <tr> <td>南花台地区年少人口比率</td> <td>6.9%</td> <td>6.8%</td> <td>0.1ポイント減</td> </tr> </tbody> </table> <p>・南花台地域におけるまちづくりについては、当初の想定を上回る成果が生まれており、他地域における横展開事業の必要性がより高まっていることから、当初申請時において設定していたKPI、「南花台地区における総人口」を、「咲く南花台プロジェクト」の横展開地域において、新たに創出した活動の参加者を把握することにより、横展開事業及び地域活動拠点整備の直接的な効果を計測するため、「横展開地域における活動参加者数」に変更している。新型コロナウイルス感染症により、令和2年度に事業開始が出来なかったものの、令和3年度より活動を開始し、一年遅れで目標値に近く伸ばしている状況にある。よって、累計で達成できていないものの、横展開事業の拡大は進めることができたと判断している。</p>		事業開始前	2022年度末	減少	河内長野市年少人口比率	9.5%	9.0%	0.5ポイント減	南花台地区年少人口比率	6.9%	6.8%	0.1ポイント減
	事業開始前	2022年度末	減少										
河内長野市年少人口比率	9.5%	9.0%	0.5ポイント減										
南花台地区年少人口比率	6.9%	6.8%	0.1ポイント減										

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略・地方創生推進交付金事業 評価シート

事業名称	「丘の生活拠点」(南花台)まちづくりモデル事業	
要素事業①	「丘の生活拠点」(南花台)まちづくりモデル事業	担当課 総合政策部政策企画課

	実施内容	成果	事業費(千円)
令和4年度実施事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>提案事業総合企画調整</li> <li>「総合研究会」など各プロジェクト会議の運営</li> <li>地域活動拠点「コノミヤテラス」の運営及び自立化の推進</li> <li>南花台モビリティ「クルクル」の取り組み推進</li> <li>「咲く南花台プロジェクト横展開」としてイズミヤ河内長野店における地域活動拠点の運営推進</li> <li>南花台モビリティ「クルクル」自動運転実証事業運行延伸</li> <li>UR集約事業におけるサッカーチームと連携したまちづくりの推進</li> <li>「コノテラ通信」発行など地域による情報発信</li> <li>南花台ブランディング事業(ブランドロゴ・メッセージ制作)</li> </ul>	[参考指標] ●「コノミヤテラス」来訪者数: 9,005人/年 ●「コノミヤテラス」運営による収益: 105,800円 ●南花台モビリティ「クルクル」乗客数: 1,713人 ●南花台モビリティ「クルクル」スタッフ数: 58人 ●地域活動拠点「イズミヤゆいテラス」の医療実績: 12,914人/年	12,700
		(合計)	12,700

	【令和4年度評価】	【令和4年度の評価内容】
担当者評価	①非常に効果的であった	令和元年度に開始した南花台モビリティ「クルクル」については、コロナ禍でも利用者を延ばし、地域内移動支援としての効果を発揮できた。 地域活動拠点である「コノミヤテラス」についても、コロナ禍の収束を見据えて地域活動を再開していき、地域住民主催の習い事などが再開された。 また、UR集約跡地におけるサッカースタジアムを含む公園整備検討にあたり、地域住民代表や建築・ランドスケープ・ジェンダーなどの学識経験者で構成されたUR団地集約跡地活用に係る推進委員会を立ち上げ、公園整備における整備方針等を示した基本計画を策定するとともに、令和5年度に実施する設計業務の委託事業者の選定を行いながら、設計段階から地域の意見を幅広く集約することを目的とし、地域向けの公園整備に関するアンケート、住民説明会、ワークショップ等を開催した。 あわせて、これまでの取り組みの広がりを受けて、交通不便地での電動カートを用いた地域住民主体の運行が開始し、河内長野駅前のイズミヤ4階における「イズミヤゆいテラス」も順調に利用者を伸ばすなど、事業の横展開も図ることができた。

評価: 交付金事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果がなかった」、「④効果がなかった」

	【今後の課題・取組みなど】
改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>南花台モビリティ「クルクル」の取組みと、生活支援や健康づくり、子育て支援などの取組みとの連携を図り、地域生活における移動の課題解決と、生活の質の向上、コミュニティの活性化など相乗効果を生み出していく。</li> <li>自動運転技術による「安全性の向上」、「担い手の負担軽減」による新たな担い手の確保につなげていく。</li> <li>UR集約跡地におけるサッカースタジアムを含む公園の集約・再編に向けた地域の合意形成、地域活性化に向けたソフト事業の検討を行う。</li> <li>南花台で創出されたまちづくり活動のモデルを市内他地域へ横展開し、市全体の活性化につなげていくことで持続可能なまちの構築を図る。</li> <li>「イズミヤゆいテラス」において、より積極的に地域との連携を図り、生活の質の向上や、コミュニティの活性化など相乗効果を生み出していく。</li> </ul>

	【委員会評価】 下記から選択して下さい。	【評価等に対する意見】
委員会評価	取組事業が評価交付金事業の目標・KPI達成するために ①妥当である ②概ね妥当である ③検討を要する	



事業名称	地域活性・交流ハブ拠点化推進事業(事業期間:令和3年度～令和5年度)
事業の目標	<p>●大阪南東部に位置する河内長野市は、都市部に近いにも関わらず、豊かな自然に囲まれ、多くの緑やきれいな水に恵まれた地域である。「ちかくて、ふかい奥河内」をキャッチフレーズに推進してきたイメージ戦略が一定の広がりを見せ、近年の観光入込客数の増加につながっている。</p> <p>●また、「中世に出逢えるまち～千年にわたり護られてきた中世文化遺産の宝庫～」、「女人高野～女性とともに今に息づく女人高野～時を超え、時に合わせて見守り続ける癒しの聖地～」と「葛城修験～里人とともに守り伝える修験道はじまりの地～」の3つの「日本遺産」に認定され、それらを観光プロモーション等に活用している。</p> <p>●さらに、コロナ禍の影響により、人々の働き方や居住地選択に変化が生じており、大阪市中心部から電車で30分程度の距離でありながら、豊かな自然を有する本市への関心が高まっている。</p> <p>●本市の観光ハブ拠点として位置付けている道の駅「奥河内くろまろの郷」の周辺エリアには、JA大阪南農産物直売所「あすかてくてく」、林業総合センター「木根館」、府立花の文化園が併設され、エリア全体で観光誘客に取り組んでいる。</p> <p>●これらのことから、本市最大の集客エリアである道の駅「奥河内くろまろの郷」を中核として、観光客・交流人口の増加を、地域内産業の活性化に結びつけ、商業、また地域資源である農業・林業の振興をめざす。また、本市が持つ豊かな自然、歴史・文化などまちの魅力を発掘・創出し、市民のまちへの愛着や誇りを育むとともに、市への良好なイメージの定着を進め、新規移住者の受け入れ体制の整備等を推進することにより、交流人口の拡大を定住人口の増加につなげ、にぎわいや活力に満ちたまちの創造をめざす。</p>
全体の概要	<p>●農業、林業において、地域資源を活かしたブランド化を確立し、販路拡大につなげるとともに、磨きあげた資源を有機的に結び付け、さらなる市内循環を生み出すことで、地域内経済の活性化及び雇用の創出につなげる。</p> <p>●子育て世代が住みよいまちとするために、本市最大の集客施設である道の駅の「子育て応援」機能強化を行い、子育て世代に対応した地域活性・交流拠点整備を進める。(令和4・5年度事業)</p> <p>また、子育て世代を中心とした定住人口の確保を目的に、本市の良好なイメージの拡大を図るため、観光客(訪日外国人を含む)に直接届く観光プロモーションに取り組む。</p> <p>さらに、ポストコロナ期においても、子育て世代を中心とした市民や観光客が安心して集客と消費を高めることができるよう、観光MaaSを活用した事業を実施する。(令和5年度事業)</p> <p>●これらの取組みを、広く市民にも発信し、市民の地域資源への理解向上を図ることにより、市へのまちへの愛着や誇りを育み、定住促進につなげる。</p>

## 【数値目標(KPI)及び実績】

項目		事業開始前	令和3年度 (増加分)	令和4年度 (増加分)	令和5年度 (増加分)	累計
道の駅奥河内くろまろの郷年間売上高【億円】①	目標	8.54	0.42	0.46	0.47	1.35
	実績		0.05	0.47	0.47	0.99
おおさか河内材の木材供給量(原木材積)【m <sup>3</sup> 】②	目標	2,400.00	40.00	10.00	10.00	60.00
	実績		-200.00	776.00	10.00	586.00
「子育てのしやすさ」に関する市民満足度【%】③	目標	19.10	0.40	0.50	0.50	1.40
	実績		-0.60	-0.70	0.50	-0.80
社会動態の転入者/転出者の率【%】④	目標	78.00	4.00	4.00	4.00	12.00
	実績		0.04	-0.12	4.00	3.92
令和4年度の指標の状況及び事業への反映の考え方		<p>■KPI①の令和4年度増加分については達成した。これはコロナの影響から、道の駅への観光需要が高まったことや、市内の観光施設を結ぶスタンプラリー事業等と道の駅を連携させるなど、道の駅を核とした観光情報の発信機会を充実した結果、道の駅への来訪者数及び売上増加に繋がったと考えられる。</p> <p>■KPI②については、令和3年度と比較して大幅に増加している。このことは、本交付金事業として実施している「木のある暮らし推進事業」を必要とする人に周知され、木材利用量が増えたことに伴うものと考えられる。また、木材の搬出に係る支援と併せて本事業を進めたことが効果的に供給量を増やすことができ、林業の活性化に繋がったものと考えられる。</p> <p>■KPI③の令和4年度増加分については未達成となった。これは昨年引き続きコロナの影響から子育て世代を含む市民を対象としたイベント等が減少していたことや、市内公共施設等の利用が制限などが継続されたことにより、子育て世代の本市での生活に対する満足度の低下につながり、KPI③の低下につながったと考えられる。</p> <p>■KPI④の令和4年度増加分については未達成となっているが、これは令和3年度に比べ転入数の減少が顕著であったことによるものと考えられる。</p> <p>⇒KPI③④の達成に向けては、子育て世代を含む市内外からの観光客に向け、本市での生活や子育て、観光などの具体的なイメージを伝えることで、子育て世代の市民満足度や転入・転出防止の動機付けに繋げる必要があると考える。</p> <p>そこで、コロナ以後も集客力が向上しており、本市の観光拠点として機能を発揮している道の駅と連携した魅力発信の取り組みが必要であると考え、令和5年度においては、令和4年度に本交付金を活用して設計した道の駅優先駐車スペースへの屋根設置工事を実施し、子育て世代を含む多様な施設利用者の利便性向上を図り、更なる集客と、本市の良好なイメージの定着に取り組む。</p> <p>また観光MaaSアプリを活用した市内周遊ルート等を提案する情報発信事業に取り組み、具体的な本市における観光イメージの拡大につなげる。</p>				

※令和5年度以降は見込み

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略・地方創生推進交付金事業 評価シート

事業名称	地域活性・交流ハブ拠点化推進事業	
要素事業①	観光誘客促進事業	担当課 環境経済部産業観光課

	実施内容	成果	事業費(千円)
令和4年度実施事業	・かわちながの観光マップの作成 本市の観光の魅力(歴史・日本遺産・自然等)について観光客等に分かりやすく解説し、市域全体を案内する観光マップを作成した。多言語対応(英語、中国語(簡体字)の2言語)を行い、アフターコロナ期に向けたインバウンド集客に活用できるマップとした。	【参考指標】 ●作成部数 日本語版:10,000部、英語版:3,000部、中国語版:3,000部 ●配布部数(令和4年度末まで) 日本語版:約5000部、英語版:約200部、中国語版:約200部 ●令和4年度観光入込客数: 1,077,400人(R3年度比91,800人増)	1,215
		(合計)	1,215

	【令和4年度評価】	【令和4年度の評価内容】
担当者評価	①非常に効果的であった	完成したマップは、道の駅や河内長野市観光案内所の来訪者に、日本遺産ガイドブックやハイキングマップなどの観光テーマ別に作成した既存のパンフレットと組み合わせて観光案内を行い、市内周遊を促している。 また、インバウンドを含むさらなる誘客促進を図るため、市内の主要観光施設だけでなく、大阪観光局と連携し、大阪市内の観光案内所にも配架を依頼した。併せて、河内長野市観光ポータルサイトなどにマップデータを掲載し、WEBでの情報発信も行っている。また、今後はイベント等においても配布し、国内外からの一層の観光誘客に向け、積極的に活用していく予定である。 このように、本マップは、今後の観光情報発信事業の中核となる資料として活用が図られている。

評価:交付金事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③「効果があった」、「④効果がなかった」

	【今後の課題・取組みなど】
改善	・新型コロナウイルス感染症の影響が減少してきたことや、万博等の開催によるインバウンドを含む観光需要の回復を見据え、本市の観光情報発信の拠点である道の駅と観光案内所と連携し、本市の魅力効果を効果的に発信する取り組みが必要である。 ・本市の観光コンテンツの認知獲得に係る情報発信に加え、それらを組み合わせ、市内の周遊と観光消費の促進に向けた取り組みを実施していく。

	【委員会評価】 下記から選択して下さい。	【評価等に対する意見】
委員会評価	取組事業が評価交付金事業の目標・KPI達成するために ①妥当である ②概ね妥当である ③検討を要する	

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略・地方創生推進交付金事業 評価シート

事業名称	地域活性・交流ハブ拠点化推進事業	
要素事業②	木のある暮らし推進事業	担当課 環境経済部農林課

	実施内容	成果	事業費(千円)
令和4年度実施事業	・おおさか河内材活用事業補助金 地元木材である「おおさか河内材」のブランド化を確立し、林産品の利用促進につなげることで、地域資源である林業の活性化を図り、雇用の創出につなげるため、民間事業者等によるおおさか河内材を活用した建物の新築や改修のうち、おおさか河内材活用のモデル事例となり、その魅力を市内外に広く発信することができる取組みを選定し、補助金により支援することで、市として戦略的におおさか河内材の魅力を発信し、利用拡大につなげていく。  補助金額: おおさか河内材使用量(m <sup>3</sup> ) × 60千円～100千円(使用量による)	”[参考指標] ●本補助金活用によるおおさか河内材使用量 ・令和3年度: 41.3m <sup>3</sup> ・令和4年度: 51.1m <sup>3</sup> ⇒増加量: 9.8m <sup>3</sup> ●おおさか河内材の木材供給量 ・令和3年度: 1,997m <sup>3</sup> ・令和4年度: 2,773m <sup>3</sup> ⇒増加量: 776.0m <sup>3</sup> ”	4,278
		(合計)	4,278

	【令和4年度評価】	【令和4年度の評価内容】
担当者評価	①非常に効果的であった	・「おおさか河内材」の活用支援を行ったことで、50m <sup>3</sup> を超える材の使用量の確保ができた。また、おおさか河内材の木材供給量は令和3年度と比較して大幅に増加しているが、本補助金により使用料が増加したことが一因と考えられる。  ・補助金事業により、市内住宅等の木質化の後押しすることができた。  ・木材の搬出に係る支援と併せて行うことにより、効果的に林業振興を図ることができた。

評価: 交付金事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、③「効果があった」、「④効果がなかった」

	【今後の課題・取組みなど】
改善	・「おおさか河内材」の活用支援及び取組周知・情報発信を引き続き実施していく。  ・本事業と木材の搬出に係る支援を併せて取り組むことにより、川上(森林側)・川下(使う側)の両方向から木材供給量増加に繋がる支援を進めていく。

	【委員会評価】 下記から選択して下さい。	【評価等に対する意見】
委員会評価	取組事業が評価交付金事業の目標・KPI達成するために  ①妥当である ②概ね妥当である ③検討を要する	

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略・地方創生推進交付金事業 評価シート

事業名称	地域活性・交流ハブ拠点化推進事業	
要素事業③	産地ブランド力向上事業	担当課 環境経済部農林課

	実施内容	成果	事業費(千円)
令和4年度実施事業	<p>○改植・新植に係る苗木購入補助金 大阪府下有数の桃の産地である本市において、地元桃のブランド化を確立し、販路拡大等に繋げるとともに、道の駅において桃を活用した加工品の製造販売につなげるよう、市として戦略的に優良品種への改植・新植に対する支援を行う。 自立に向けては、JA、地元桃組合、道の駅、加工事業者等と連携を深め、桃の供給体制の強化や加工品製造販売等を通じ、補助金なくともブランド産品としての販路獲得を促す取り組みを進める。</p> <p>2団体 12名 87本 77,485円</p>	<p>【参考指標】 ○直売所における桃売上状況 あすかてくるで(河内長野・羽曳野) R3:12,642点 7,460,040円 R4:14,469点 8,663,720円</p>	77
		(合計)	77

	【令和4年度評価】	【令和4年度の評価内容】
担当者評価	②相当程度効果があった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業の実施により、地元桃のさらなるブランド化、販路拡大等に繋げるとともに、生産量の確保と産地の競争力の向上を図ることができた。</li> <li>・本事業の実施により、優良品種への改植・新植を促進し、直売所における品揃えの向上と、消費者ニーズに即した農産物の提供につながることを期待される。</li> <li>・特定外来生物クビアカツヤカミキリに対する被害が顕著に増加傾向であり、その対策としても効果があった。</li> </ul>

評価: 交付金事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、③「効果があった」、「④効果がなかった」

	【今後の課題・取組みなど】
改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者の高齢化と担い手不足。</li> <li>・地球温暖化による栽培環境の変化(旬・品種・栽培方法など)。</li> <li>・消費者ニーズが高く、直売所でも人気のある桃について、産地の保全と、後継者の育成、加工品も含めた販路の拡大に取り組んでいく。</li> </ul>

	【委員会評価】 下記から選択して下さい。	【評価等に対する意見】
委員会評価	<p>取組事業が評価交付金事業の目標・KPI達成するために</p> <p>①妥当である</p> <p>②概ね妥当である</p> <p>③検討を要する</p>	

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略・地方創生推進交付金事業 評価シート

事業名称	地域活性・交流ハブ拠点化推進事業	
要素事業④	世界かんがい施設遺産登録PR事業	担当課 環境経済部農林課

	実施内容	成果	事業費(千円)
令和4年度実施事業	・世界かんがい施設遺産登録PR事業 令和3年11月に世界かんがい施設遺産に登録されました寺ヶ池・寺ヶ池水路について、パネル、パンフレット、幟の作成を行い、記念事業である基調講演、展示会、特別展を開催し、広く市民に周知し、PRを行う。また、市民の安全確保を図るため、現地の危険な箇所立ち入りを控える看板の作成を行う。	[参考指標] ●基調講演参加者数:50名(7/2・キックス) ●展示会入場者数:109名(7/1,3・キックス) ●特別展入場者数:925名(7/30~9/19・ふるさと歴史学習館)	661
		(合計)	661

	【令和4年度評価】	【令和4年度の評価内容】
担当者評価	②相当程度効果があった	・記念事業の基調講演、展示会、特別展を開催するために、パネル5枚、パンフレット4,000部を作成し、広く市民にPRすることができた。 ・市内小、中学校にパンフレットの作成について周知し、5校の小学4年生にはパンフレットを配布し、総合学習の授業で寺ヶ池・寺ヶ池水路の地域の学習教材として活用できた。

評価:交付金事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、③「効果があった」、「④効果がなかった」

	【今後の課題・取組みなど】
改善	・パンフレットや幟等を活用し、寺ヶ池公園を中心に広く市民に周知、情報発信を実施していく。

	【委員会評価】 下記から選択して下さい。	【評価等に対する意見】
委員会評価	取組事業が評価交付金事業の目標・KPI達成するために ①妥当である ②概ね妥当である ③検討を要する	

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略・地方創生推進交付金事業 評価シート

事業名称	地域活性・交流ハブ拠点化推進事業	
要素事業⑤	自転車の駅整備事業	担当課 環境経済部産業観光課

	実施内容	成果	事業費(千円)
令和4年度実施事業	・電動サイクル充電機器の購入 コロナ禍において、密を避ける地域の身近なアウトドア環境での観光の取り組み強化を図るべく、子育て世代を中心としたサイクリストをターゲットとした市内周遊のネットワーク化を促進することを目的に、道の駅及び観光案内所に、施設来訪者が利用できる電動サイクル用充電器を設置した。また、道の駅のレンタサイクル備品を拡充した。 ・充電器 パナソニック(NKJ075Z) 2台 YAMAHA(X2P8210C) 2台 ※各施設に各1台ずつ配置 ・バッテリー パナソニック(NKY580B02) 5個	[参考指標] ●充電機器設置施設:道の駅奥河内くろまるの郷、河内長野市観光案内所 ●レンタサイクル実績(R4) 道の駅:369件(R3年度比100件増)、観光案内所:705件(R3年度比:129件増) ●令和4年度観光入込客数:1,077,400人(R3年度比91,800人増)	250
		(合計)	250

	【令和4年度評価】	【令和4年度の評価内容】
担当者評価	②相当程度効果があった	新型コロナウイルス感染症の感染拡大をきっかけに、サイクリングやウォーキング、ハイキングなど、密を避けるアウトドアを楽しむ層が増加している。また、本市は起伏の多い地形であり、かつ市内を東西に結ぶ2次交通にも課題があることから、電動自転車を活用した観光周遊促進は、これらの課題解決に寄与していると考えられる。

評価:交付金事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、③「効果があった」、「④効果がなかった」

	【今後の課題・取組みなど】
改善	・道の駅及び観光案内所においては、充電器の貸し出し事業の利用者増加に向けたPRの強化を実施するとともに、市内周遊ルートの提案を併せて実施し、市内の観光周遊促進に向け主体的に取り組む必要がある。

	【委員会評価】 下記から選択して下さい。	【評価等に対する意見】
委員会評価	取組事業が評価交付金事業の目標・KPI達成するために ①妥当である ②概ね妥当である ③検討を要する	

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略・地方創生推進交付金事業 評価シート

事業名称	地域活性・交流ハブ拠点化推進事業	
要素事業⑥	道の駅「子育て応援」機能強化事業	担当課 環境経済部産業観光課

	実施内容	成果	事業費(千円)
令和4年度実施事業	・道の駅優先駐車スペースからトイレ棟への屋根設置に係る設計業務 地域の子育て世代を応援するとともに、子育て世代の道路利用者への休憩機能の補完を行うことを目的に、道の駅奥河内くろまろの郷の優先駐車スペース(障がい者・高齢者・妊婦など)から施設トイレ棟への経路上に設置する屋根の設計を行った。  (1)機能強化設計委託料 741,400円 (2)開発許可申請手数料 5,200円	【参考指標】 ●令和4年度道の駅奥河内くろまろの郷来場者数:619,451人(R3年度比41,515人増) ●令和4年度道の駅奥河内くろまろの郷売上:964,755,919円(R3年度比47,186,525円増)	747
		(合計)	747

	【令和4年度評価】	【令和4年度の評価内容】
担当者評価	②相当程度効果があった	優先駐車スペース(障がい者・高齢者・妊婦など)から施設への屋根の設置を行うことは、KPIとして設定している「道の駅奥河内くろまろの郷の年間売上高」の増加、「『子育てのしやすさ』に関する市民満足度」及び「社会動態の転入者/転出者の率」の向上に寄与するものと考えます。 令和4年度の事業においては、耐久性や安全面を考慮するとともに、施設の外観イメージに調和するよう屋根の仕様を検討しました。

評価:交付金事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

	【今後の課題・取組みなど】
改善	・上記のとおり屋根の仕様を検討した結果、物価高騰等の影響もあり、当初の想定よりも事業費の見積額が増加した。 ・今後においては、令和4年度に別途整備したライブカメラの活用や、指定管理者との連携により、道の駅の観光情報発信を進めていく。

	【委員会評価】 下記から選択して下さい。	【評価等に対する意見】
委員会評価	取組事業が評価交付金事業の目標・KPI達成するために ①妥当である ②概ね妥当である ③検討を要する	

## 令和4年度まち・ひと・しごと創生寄附活用事業の評価について

### 1. 制度概要（詳細：別紙参照）

少子・高齢化に的確に対応し、人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への一極集中を是正し、活力ある社会を維持していくため、「まち・ひと・しごと創生法」が制定されたことを受けて、本市では、国の長期ビジョン及び総合戦略を勘案し、本市人口の現状と将来の展望を提示する「まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」及び地域の実情に応じた5か年の施策の方向を提示し、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環の確立と、その好循環を支える「まち」の活性化を図る「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下、「総合戦略」）を策定しています。

この総合戦略に基づき、地方公共団体が行う地方創生の取組に対する企業の寄附について法人関係税を税額控除できる制度が『地方創生応援税制（以下、「企業版ふるさと納税」）』であり、この制度を活用して取り組む事業が「まち・ひと・しごと創生寄附活用事業」となります。

### 2. 本市における令和4年度の運用について

令和2年度税制改正により、令和3年度より制度が変更となりました。

これにより、下記のような運用が可能となりました。

変更前	変更後
各要素事業実施後（事業費確定後）にし か寄附金を受領することができない	各要素事業実施前（事業費確定前）でも、 寄附金を受領することが可能
企業版ふるさと納税を充当する各要素事 業について事前に国の認定を受けること が必要	地方版総合戦略の推進に資する事業で あれば、各要素事業実施後の国への報告 で可（年度終了毎）

これを受けて、本市ではまち・ひと・しごと創生寄附活用事業について、下記の2通りの方法で要素事業を実施することとしました。

A：市として戦略的に寄附を募集し、活用を図る事業

B：事業者の意向を最大限尊重しながら充当事業を検討し、寄附金の活用を図る事業

### 3. 令和4年度 まち・ひと・しごと創生寄附活用事業について

（要素事業1）サッカーチームと連携したまちの魅力向上事業（上記Aに該当）

（要素事業2）林道整備事業（上記Bに該当）

（要素事業3）公共交通推進事業（上記Bに該当）



#### 4. 評価の概要

今回の行財政評価委員会では、令和4年度に実施したまち・ひと・しごと創生寄附活用事業について、市で実施した内部評価に対し、外部の視点で評価いただきます。

評価対象事業	評価資料
要素事業	
まち・ひと・しごと創生寄附活用事業	○ 総合シート
(要素事業1) サッカーチームと連携したまちの魅力向上事業	○ 事業シート
(要素事業2) 林道整備事業	○ 事業シート ○ (参考資料)林道整備事業 説明資料
(要素事業3) 公共交通推進事業	○ 事業シート ○ (参考資料)公共交通推進事業 報道提供資料

#### 5. 評価の方法

「総合シート」・「事業シート」及び添付資料により、事業内容を確認いただき、「総合シート」に記載の事業の目標を達成するために、評価年度に実施した取り組みが効果的であったか、および今後の方向性が適切か、等の観点から、「総合シート」の委員会評価（シート下記部分）をお願いします。

【委員会評価】①～③を選択してください。

【評価等に対する意見】 事業に関するご意見等を記入してください。

【「総合シート」・委員会評価欄】

	【委員会評価】 下記から選択して下さい。	【評価等に対する意見】
委員会評価	取組事業が評価交付金事業の目標・KPI達成するために ①妥当である ②概ね妥当である ③検討を要する	

## <評価シートについて>

### ■総合シート（評価シート）

事業全体の目標や実績、内部評価や課題、今後の方向性等について記載しています。

事業名称	事業の名称を記載しています。
事業の目標、概要	事業全体としての目標、および個別の要素事業の概要等を記載しています。
実績（令和4年度寄附額）	令和4年度に、各要素事業に対して受け入れた寄附の一覧を掲載しています。
担当者評価、事業の課題と令和5年度以降の方向性	事業内容や実績を踏まえた内部評価と課題、およびそれらを踏まえた令和5年度以降の取り組み方針について、市内部の見解を記載しています。
委員会評価	上記の記載事項を踏まえ、委員会評価をいただく欄です。各委員で記載いただいた後、委員会としての評価をお願いします。

### ■事業シート

事業を構成する要素事業ごとに、具体的な事業の内容や行政の内部評価、今後の課題等について記載しています。

実施事業	評価年度に実施した具体的な取り組みの内容について記載しています。また、その成果について、できる限り具体的な数値で表せるよう、参考指標を示しています。
担当者評価	評価年度に実施した取り組みが、事業の目標を達成するために効果があったかとの視点より事業担当部署が評価を行い、その評価内容についてコメントを記載しています。
改善	今後の課題や取り組みの方向性について記載しています。

## ■留意事項：事業シートについて

「令和4年度まち・ひと・しごと創生寄附活用事業」全体としての評価をいただくことから、個別の要素事業については評価欄を設けておらず、あくまで寄附金を活用して実施した事業の参考情報としてご参照ください。

なお、個別の要素事業についても、

- ・ 要素事業1について、令和5年度までは、寄附金自体は積み立てを行うのみであり、事業費への充当（サッカースタジアム建設）は行われな  
こと
- ・ 要素事業2については、林業基盤整備として恒常的に実施するインフラ整備事業であり、施工自体の評価等については技術的部分が占める割合が高く専門領域となり本委員会での評価にそぐわないこと
- ・ 要素事業3については、派遣人材が携わる事業が広範囲にわたること

以上のことから、個々の事業自体の評価ではなく、特に企業版ふるさと納税を活用したこと、についての効果や課題について記載しています。

事業名称	河内長野市まち・ひと・しごと創生寄附活用事業
事業の目標・概要	<p><b>【目標】</b> 企業版ふるさと納税を活用した事業を実施することにより、河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進を図る。</p> <p><b>【寄附を活用して実施した事業】</b></p> <p><b>1. サッカーチームと連携したまちの魅力向上事業</b> 市内南花台地区では、少子高齢化の進む開発団地の再生モデル構築として、「南花台スマートエージング・シティ 団地再生モデル事業」に取り組んでいる。 この一環として、同地区内でUR都市機構が進める集約型団地再生事業により生まれる跡地に女子サッカーチームの本拠地を誘致し、チームと連携することによる地域の活性化を図る。</p> <p><b>2. 林道整備事業</b> 市管理の基幹林道であり、地区林業の基幹であるとともに、緊急輸送路としての役割も担っている林道千石谷線外1線の整備を実施する。</p> <p><b>3. 公共交通推進事業</b> 3. 公共交通推進事業 本市と包括連携協定を締結している南海電気鉄道(株)との連携により企業版ふるさと納税(人材派遣型)を受入れ、公共交通推進に係る各種業務を推進し、地域の実態に応じた交通ネットワークの整備や、市民の生活利便性確保を図る。</p>

## 【実績(令和4年度寄附額)】

	社名	年月日	サッカーチームと連携したまちの魅力向上事業	林道整備事業	公共交通推進事業
1		2022/4/28	2,500,000		
2	musica株式会社	2022/5/24	10,000,000		
3	味覚糖株式会社	2022/7/25	15,000,000		
4	ユーハ味覚糖株式会社	2022/7/25	6,000,000		
5	ユーハ株式会社	2022/7/25	2,000,000		
6	ユーハピピン株式会社	2022/7/25	1,000,000		
7	ユーハ味覚糖精密工学研究所株式会社	2022/7/25	1,000,000		
8		2022/7/28	100,000,000		
9		2022/7/28	1,000,000		
10		2022/7/28	1,000,000		
11		2022/8/31	100,000		
12		2022/9/17	500,000		
13		2022/9/30	100,000		
14		2022/11/30	100,000		
15		2023/1/31	1,000,000		
16		2023/3/15	1,000,000		
17		2023/3/15	100,000		
18		2023/3/20	300,000		
19		2023/3/20	3,000,000		
20	株式会社ウォーターエージェンシー	2023/3/24	1,000,000		
21		2023/3/24	300,000		
22		2023/3/28	100,000		
23		2023/3/30	200,000		
24		2023/3/31	10,000,000		
25	医療法人健人会 那須クリニック	2023/3/31	210,000		
26		2022/5/18		100,000	
27		2023/3/24			5,406,692
			157,510,000	100,000	5,406,692

<p><b>担当者評価、事業の課題と令和5年度以降の方向性</b></p>	<p>【令和4年度担当者評価】 「①非常に効果的であった」</p> <p>【令和4年度の評価内容】 過去の寄附企業との関係性維持に努めたほか、新たに、市と関連のある企業にも寄附の働きかけを積極的に行った結果、寄附金の増加や、企業版ふるさと納税人材派遣型の活用にもつながったことにより、民間資金のみならず、人材の持つノウハウがより直接的に可能となるなど、非常に効果的であった。</p> <p>【事業の課題と令和5年度以降の方向性】 これらの事業が企業版ふるさと納税の活用事業であることを周知しきれていない状況である。今後は、市民をはじめとして本事業を広く周知することにより、企業が企業版ふるさと納税によりCSRを果たしていることも併せて周知し、企業にとってのメリットを最大化させることで、より寄附をいただけるという好循環を目指していく。 さらに、寄附企業との協議も行い、企業との関係性が寄附のみにとどまらないよう、広く公民連携にも繋げていく。</p>
---------------------------------------	--

担当者評価：評価事業の目標達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

	<p>【委員会評価】 下記から選択して下さい。</p>	<p>【評価等に対する意見】</p>
<p><b>委員会評価</b></p>	<p>取組事業が事業の目標・KPI達成するために</p> <p>①妥当である</p> <p>②概ね妥当である</p> <p>③検討を要する</p>	

## 河内長野市まち・ひと・しごと創生寄附活用事業 事業シート

<b>事業名称</b>	河内長野市まち・ひと・しごと創生寄附活用事業	
<b>要素事業①</b>	サッカーチームと連携したまちの魅力向上事業	<b>担当課</b> 総合政策部政策企画課

	実施内容	参考指標	事業費(千円)
<b>令和4年度実施事業</b>	<p>(1)令和4年度実施事項 UR団地集約事業跡地に整備する(仮称)南花台中央公園整備に向けた基本計画を策定するため、市の附属機関として学識経験者や地域住民代表等で構成される「河内長野市UR南花台団地集約跡地活用整備事業推進委員会」を立上げ、全11回の会議を実施すると共に、基本設計・実施設計事業者の選定を行った。 また、事業用地購入に向けた不動産鑑定を行い、市の不動産評価審議会に諮り、土地の評価額を決定した。</p> <p>※ただし、寄附金の充当事業であるサッカースタジアム建設については、設計の開始が令和5年度であるため、企業版ふるさと納税の充当も令和5年度より実施予定である。 令和4年度受領の寄附金は、市の基金(河内長野市ふるさとづくり基金)へ全額積み立てを行った。</p> <p>(2)企業版ふるさと納税受領額 1億5,751万円(25社)</p>	<p>○施設一体型小中一貫教育推進校整備と公園整備に関する住民説明会 ・令和4年11月20日実施 ・参加者92人</p> <p>○UR南花台団地集約事業跡地における公園整備事業に関する意見交換会 ・令和5年1月29日実施 ・参加者数:80名</p> <p>○スペランツァ大阪ホームタウン感謝デー(河内長野市民デー) ・令和4年9月4日実施 ・112名の市民が来場</p>	33,244
	(合計)		33,244

	【令和4年度評価】	【令和4年度の評価内容】
<b>担当者評価</b>	②相当程度効果があった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業と連携することにより、市の実質負担なくハード整備が実施可能となる。</li> <li>・ 企業版ふるさと納税を活用することで、多くの企業と接点生まれ、今後のプロジェクトにおける参画が期待できる。</li> <li>・ 企業版ふるさと納税を活用した取り組みとして注目度が高く、事業自体の周知に貢献している。</li> </ul> <p>※令和5年度までは、寄附金の事業費への充当(サッカースタジアム建設)は行われないことから、左記評価は、サッカースタジアム建設についてではなく、「企業版ふるさと納税の活用」についての効果を記載しています。</p>

評価事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

<b>改善</b>	<p>【今後の課題・取組みなど】</p> <p>寄附金充当業務としては令和5年度以降の実施となる。 事業の効果を最大限に発揮できるよう、専門家はもちろん地域住民の意見も取り入れながら、単なる施設整備にとどまらない、新たな地域交流が生まれる場となるよう進めていく。 また、寄附企業との協議も行い、企業との関係性が寄附のみにとどまらないよう、公民連携に繋げていく。</p>
-----------	--

## 河内長野市まち・ひと・しごと創生寄附活用事業 事業シート

<b>事業名称</b>	河内長野市まち・ひと・しごと創生寄附活用事業	
<b>要素事業②</b>	林道整備事業	<b>担当課</b> 環境経済部農林課

	実施内容	参考指標	事業費(千円)
<b>令和4年度実施事業</b>	<p>(1)令和4年度実施事項 市管理の基幹林道であり、地区林業の基幹であるとともに、緊急輸送路としての役割も担っている林道千石谷線外1線の整備を実施した。</p> <p>(2)背景 ・寄附を申し出た事業者(以下、「同社」)より、森林の保全、特に林道等に関する事への活用意向が聞かれた。 ・地方版総合戦略の基本目標1「安定した雇用を創出する」の施策2「農林業の振興」において、「林道の基盤」が規定されていることから、寄附金を充当する要素事業の内容として林道整備事業を選定し、事業費の一部に充当した。</p> <p>(3)企業版ふるさと納税受領額 10万円(1社)</p>	<p>令和4年度実施事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施工延長 L=102.6m</li> <li>・コンクリート路面工 A=418.0㎡</li> </ul>	4,114
	(合計)		4,114

	【令和4年度評価】	【令和4年度の評価内容】
<b>担当者評価</b>	②相当程度効果があった	<p>○当初予算上の千石谷舗装予定延長は70mであったところ、寄附金の活用により2.5mの量的充実が図れた。</p> <p>○寄附事業者は、林業振興に意識の高い事業者であり、同社と協議し、思いを反映した寄附金の活用を行ったことで、同社との継続的な連携にも繋がっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度も、同社より同様の趣旨・金額で寄附を受け入れ</li> <li>・附属機関「かわちながの森林プラン推進協議会」に同社代表が委員に就任(令和4年度より)</li> <li>・同社については、森林整備地域活動支援事業補助金により森林経営計画策定に向けて取り組みがなされた。</li> </ul>

評価事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

<b>改善</b>	<p>【今後の課題・取組みなど】</p> <p>企業版ふるさと納税がさらに広がるよう、本実績を市内外にアピールする必要がある。さらに、企業との関係性が寄附のみにとどまらないよう、林道災害における効率的なパトロール等公民連携に繋げていく。</p>
-----------	--

## 河内長野市まち・ひと・しごと創生寄附活用事業 事業シート

<b>事業名称</b>	<b>河内長野市まち・ひと・しごと創生寄附活用事業</b>	
<b>要素事業③</b>	<b>公共交通推進事業</b>	<b>担当課</b> 都市づくり部都市計画課

	実施内容	参考指標	事業費(千円)
<b>令和4年度実施事業</b>	<p>(1) 令和4年度実施事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モックルMaaSの実装、運用</li> </ul> <p>関係部局と仕様内容の調整を実施後、業者選定のための公募型プロポーザルを実施。選定事業者とシステム仕様について協議を進め、システム改修やコンテンツ制作を実施。市の魅力の効果的な発信のため、関係部局や事業者と密に連携しながら、コンテンツの充実に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域公共交通計画の策定</li> </ul> <p>「河内長野市公共交通のあり方」に基づく、令和5年度からの具体的な取り組み施策を定める実施計画を策定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アフターコロナを見据えた公共交通ネットワークの再構築</li> </ul> <p>石見川地区の検討会で協議しながら、スクールバスと乗合タクシーを一体的に運用するスキーム作りを進めた。</p> <p>(2) 背景</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本市と包括連携協定を締結している南海電気鉄道(株)との連携の過程で、企業版ふるさと納税(人材派遣型)を受入れることとなった。</li> <li>・同社とは、日頃より公共交通分野で密接な関係性があり、公共交通に精通する人材が豊富であることから、協議の結果公共交通推進事業での人材受け入れとなった。</li> </ul>	公共交通不便地域への支援(支援地区数):5地区	25,790
	(合計)		25,790

	【令和4年度評価】	【令和4年度の評価内容】
<b>担当者評価</b>	①非常に効果的であった	<p>○モックルMaaSの実装、運用については、庁内関係部局との協議のみならず、交通事業者や協力事業者との調整が必要であり、交通事業者からの派遣人材知識やノウハウを活用することができて、非常に効果的であった。</p> <p>○地域公共交通計画については、交通事業者としての知識やノウハウを活用することができて、非常に効果的であった。</p> <p>○公共交通ネットワークの再構築について、R4年度に実施した石見川地区の地域の検討会や、スクールバスと乗合タクシーの一体的な運用をするスキーム作りにおいて、派遣人材の持つ、行政とは異なる知見を活かし、事業を進めることができた。</p>

評価事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

	【今後の課題・取組みなど】
<b>改善</b>	市内の公共交通ネットワークの再構築を進めるにあたり、事業者の目線やノウハウを持った人材と協働で進めることができるのは、有意義である。今後も民間事業者との連携を図っていく必要がある。



## 令和5年度の外部評価対象施策について

## 1. 外部評価の目的

市で行った行政評価（内部評価）の妥当性を、専門的な見地や市民の目線から検証することで、客観性を確保するとともに、第5次総合計画を効果的・効率的に推進し、めざすまちの将来都市像「人・自然・歴史・文化輝く ふれあいと創造のまち 河内長野」の実現を図ります。

## 2. これまでの評価対象施策

第5次総合計画の全38施策を対象に、毎年評価を実施し、そのうち3施策程度を「重点施策」に選定して、特に重点的に評価を行っています。

実施年度	対象年度	総合計画の全38施策		
		総務	福祉・教育	都市・環境・経済
H29	H28	<b>重点施策</b> 施策36 協働 施策37 行財運営 施策38 財政運営 ※上記以外は書面評価	全て書面で評価	全て書面で評価
H30	H29	全て書面で評価	<b>重点施策</b> 施策7 高齢者福祉 施策9 社会保障 施策12 子育て支援 ※上記以外は書面評価	全て書面で評価
R元	H30	全て書面で評価	全て書面で評価	<b>重点施策</b> 施策22 循環型社会 施策26 住宅環境 施策33 観光振興 ※上記以外は書面評価
R2	R元	新型コロナウイルスの影響により書面会議		
R3	R2	新型コロナウイルスの影響により書面会議		
R4	R3	<b>重点施策</b> 施策1 危機管理 施策4 交通安全 施策35 都市ブランド ※上記以外は書面評価	全て書面で評価	全て書面で評価

### 3. 令和5年度行政評価（対象：令和4年度）の重点施策

令和5年度は、「福祉・教育」分野（別紙「第5次総合計画後期基本計画 福祉・教育分野 施策一覧」参照）の中から、下記の3施策を選定することとします。

また、論点を明確にするため、評価対象重点施策を推進する事業のうち、重点的・戦略的に取り組んでいる事業を抜粋し、外部の目線から検証いただくこととします。

#### 【令和5年度（対象：令和4年度）評価対象重点施策】

施策名称	施策の展開 (主に評価対象とする取り組み)
施策6 地域福祉の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域福祉を推進する人材の育成</li><li>・地域における支えあいの仕組みづくり</li><li>・地域福祉活動団体等への支援と連携強化</li><li>・包括的支援体制の充実</li></ul>
施策10 健康づくりの推進と医療体制の充実	<ul style="list-style-type: none"><li>・生涯にわたる健康生活を支援する体制づくり</li><li>・生涯現役で生活できる地域社会づくり</li><li>・安心できる医療体制の充実</li></ul>
施策14 青少年の健全育成の推進	<ul style="list-style-type: none"><li>・青少年の健全な成長を支援する体制づくり</li><li>・子どもたちの放課後の育ちの保障</li></ul>

## 令和5年度第1回行財政評価委員会・会議録

**日時** 令和5年8月24日（火）13時30分～15時30分  
**場所** 市役所8階 802会議室  
**出席者** 河内長野市行財政評価委員会 4名（欠席：岡島委員）  
事務局 宮阪総合政策部長、今矢政策企画課長、及び政策企画課職員  
事業担当課 政策企画課、自治協働課、産業観光課、農林課  
**傍聴者** 1名

### 案件1. 行財政評価委員会委員長の選出について

委員長に中川委員を、委員長が欠けたときに職務の代理を行う副委員長に岡島委員を選任する。

### 案件2. 令和4年度地方創生推進交付金事業の評価について

#### 事業：「丘の生活拠点」（南花台）まちづくりモデル事業

#### <担当課から事業内容・評価の概要を説明>

#### ○要素事業1 「丘の生活拠点」（南花台）まちづくりモデル事業

#### <主な質問、意見>

- 委員：波に乗るには時間がかかる事業だと感じる。また、（コロナ禍の影響もあり）実績値が1年遅れで出てきていることも踏まえると、評価は妥当であると感じている。
- 委員：まだ日にちが経っていないことから、良い実績が出ていないのだと思うが、南花台住民だけでなく河内長野市民に対して、（取り組みに関する）啓蒙があまりされていないように感じる。「クルクル」は高齢者にとって便利なものだと思うので、もっと知れ渡れば良い。
- 委員：事前に送付された資料を確認した際には数値目標の成績がいいとは思わなかったが、（コロナ禍など）色々この期間の事情もあることや、（数値目標の設定については自動運転のみを対象としていることから、）手動運転と自動運転の違いなど、説明がなされれば良いと思う。事業の目標としては、「移動支援」と「スポーツによる魅力的な街」の二つかと思うが、前者は遅れはあったが成果が出てきているので、うまくそれを見せることが必要。後者はワークショップが始まったばかりというところで、種を蒔いているところだと思うが、先ほど井戸委員が意見していたとおり、今後は皆さまに伝えていくことが重要だと思う。
- 委員長：モデル事業であることを、他の地域にどのように応用できるか、市民に納得・説得できる位置付けが必要。また、コロナが原因とはいえ、成果指標そのものが目標達成できなかったことは否定できない。代理指標を導入するやり方もあったが、政策評価のスタイルとして、工夫が足りない。

＜委員会の評価＞（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）

「妥当」

## 事業：地域活性・交流ハブ拠点化推進事業

＜担当課から事業内容・評価の概要を説明＞

### ○要素事業1 観光誘客促進事業

＜主な質問、意見＞

委員：万博がチャンスと思う。そこでのPRもされるということで、評価としては妥当と考える。

委員：とても良いマップだと思う。

委員：紙のマップはどんな時代でも必要だと思う。（その場所に）行く前に事前に調べる人が多いので、ウェブでも発信しているということだが、そこもしっかりやっていると、相乗効果が期待される。

委員長：このマップの配布場所はどこか。

担当課：主には河内長野駅前の観光案内所や、道の駅を中心に配布している。そのほか、市内を訪れた方を案内する観光ボランティアが、このマップを活用しながら案内を行っている。

委員長：マップが有効であることは認めている。このマップを製作し、拠点配布したことでの観光客増加の因果関係の実証が必要だと思う。妥当であるという評価はつけるが、マップを配布したことが明らかに観光客誘客について効果があったということを論証する通路建てをしておいて欲しい。

＜委員会の評価＞（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）

「妥当」

### ○要素事業2 木のある暮らし推進事業

＜主な質問、意見＞

委員：森林組合は、河内材をブランド化して販売しようとしているが、河内材の販売だけでなく建物を建てているので、地元工務店のライバル社になってしまっている。地元工務店と協力して、地元の木を使っていくよう盛り上がっていきける体制ができれば、一番良いと思っている。九州などであれば床板の販売に徹した森林組合などもあり、そういったものに徹したところに補助金をおろすなどして、（地元工務店と役割分担により）地域全体での協力体制ができるよう考えるべきでは。

委員長：資料上は「おおさか河内材」をブランド化して販売していく話にしか見えなかったが、それを製品化して建物を建てるところまで、森林組合がやっっているのか。

担当課：森林組合の中に建築事業部があり、建物を建てるところまでやっている。

委員 長：それはそれで、森林組合が自力で頑張っているから、否定してはいけないと思うが、横に広げていく方法がないのか。（市全体で）総力戦に持っていけないか。

委員：リフォームが4件、新築が2件あったとのことだが、新築2件というのは河内長野の人か。  
担当 課：そのとおり。

委員：モデルハウスを作るなどして、良さをコマーシャルできれば（市外の人へも）広まっていくのではないかと思った。全般の評価としては、河内長野の資源である山林を活用して、家を建てる、それに対しての補助制度は良いと思う。

委員：市内での「河内材」の使用供給量は上がっているし、妥当かと考えている。この制度は河内長野市内（の建築）に対してのみ補助金が出るのか。

担当 課：河内長野市内で建てるものに対してのみ。

委員：「河内材」のブランド化・知名度の向上が目標だとすると、市内に限らず、市外に「河内材」というブランドを発信しても良いのでは。地産地消はまた違った意味合いで良いが、市内での供給量を上げて使ってもらうのを目的にするのかどうかで、戦略的には違ってくるのかと感じる。

委員 長：河内材のブランド化にあたっては、それに関連する事業者は総力戦でやらないといけないものと思っている。「おおさか河内材」の認定事業者として認定されるのは、どのような事業者か。手を挙げたら認定されるのか。

担当 課：製材所が対象となる。

委員 長：森林組合の位置付けは。

担当 課：森林組合も、認定された製材所の一つ。

委員：森林組合が概ね占めているのではないか。

担当 課：そうではない、何社かあるうちの一つ。林業事業者や製材所が集まった販売促進協議会がある。

委員 長：河内材の流通経路と消費のインセンティブの与え方に工夫の余地があるのではないか。河内材の品質のブランド性があれば需要が拡大すると思われるのに、市内の事業者とライバル関係になると、材の流通が止まってしまう。地元の建築関係の事業者が、全体的に協力できるようなシステムを、開発してほしい。

＜委員会の評価＞（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）

「概ね妥当」

### ○要素事業3 産地ブランド力向上事業

＜主な質問、意見＞

委員：小山田の桃の評判はよく耳にする。良いブランドであってほしいと思う。

委員：小山田の桃は、他の地域の桃と比べても、素晴らしく美味しい。ジャムなど、他の加工品にするよりも、桃そのものを食べてほしい。今後の課題は後継者不足。新しい担い手を育てていくことが重要。

委員：事業費を見ると、もっとお金をかけて苗木を渡すなど、もうちょっとできないのか。優良品種を作るため品種改良することは重要だと思う。ただ生産者の減少は、苗木の改良だけでは解決しないので、もう一工夫、考えていかなければならない。

委員長：小山田の桃は、ブランド化されている他の地域の桃に負けず劣らず美味しいので、もっと高く評価されてもいいのではないかと思う。事業費がたったの77,000円ということで、苗木を渡すだけではなく、他の形での支援もできないか。

**<委員会の評価>**（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）  
**「妥当」**

#### ○要素事業4 世界かんがい施設遺産登録PR

**<主な質問、意見>**

委員：妥当である。（寺ヶ池周辺が）綺麗になっている。

委員：妥当である。

委員：世界かんがい施設遺産という言葉聞いたことがない人が多いと思うので、もっと宣伝すればいいと思う。

委員長：世界かんがい施設遺産もそうだが、それだけでなく、沢山ある河内長野の良いところをもっと宣伝して行って欲しい。

**<委員会の評価>**（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）  
**「妥当」**

#### ○要素事業5 自転車の駅整備事業

**<主な質問、意見>**

委員：自転車で河内長野をまわるのは気持ち良い。応援している。

委員：河内長野は起伏が激しいので、観心寺や天野山へと、色々回れる電動自転車は必要である。

委員：自転車や徒歩でというのは、（脱炭素などの）時代の流れもあって大事なので、自転車の充実を維持していくことが重要。

委員 長：関西サイクルスポーツセンターとの関係は謳っているのか。

担当 課：自転車を進めるまちという目標も持っており、関西サイクルスポーツセンターとも連携しながら進めている。

委員 長：それならば、もっと力を入れて、自動車より自転車の方が楽しめると PR する。中高年向けの平坦コース、青少年向けの起伏コースなどを作ると、スポーツサイクリングを楽しむ人が出るのではないか。「自転車のまち河内長野」で売り出してはどうか。

**<委員会の評価>**（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）

**「妥当」**

### ○要素事業6 道の駅「子育て応援」機能強化事業

担当 課：当該事業の令和5年度事業費について、当初想定していた工事費では不足することが判明したため、令和5年度デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）の経費増額の変更申請を行いたい。本委員会にて承認いただきたい。

各 委 員：（全会一致で承認）

**<主な質問、意見>**

各 委 員：（評価は全会一致で妥当）

委員 長：屋根は天幕タイプとのことだが、耐用年数は落ちないのか。

担当 課：耐用年数は上がると聞いている。

**<委員会の評価>**（「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価）

**「妥当」**

## 案件2. 令和4年度まち・ひと・しごと創生寄附活用事業の評価について

**<担当課から事業内容・評価の概要案を説明>**

**<主な質問、意見>**

委 員：サッカースタジアムの完成は楽しみである。今後、色々な所との連携や発信が大事になると思うが、市、競技場、スポーツ団体などとの協力により、ぜひ成功へ向けて進めてほしい。

委 員：プロサッカーチームは子どもの夢の場所だと思うので、この大きなプロジェクトによって出来たサッカーチームが河内長野市にあるとなれば、人口が増えるかもしれない。

委 員：企業の協力によるサッカーチームは、若い人達には大きく訴える要素になる。3番の公共

交通事業は人材を派遣するタイプの企業版ふるさと納税ということか。

担当課：そのとおり。人件費相当分を市に寄附いただいたら、市は費用負担なく専門知識を持った人を雇用でき、企業側はその寄附額の最大9割を税控除できるというもの。

委員：そういった人材交流は良いと思う。(モックルMa a Sについても、) デジタルも、人が作るものなので、そういったことができる人を(企業から市へ)派遣してもらうことは良いと思う。

委員長：評価は妥当で異存はない。要素事業①については、157,510千円を25社から受領して、そのうち33,244千円を使って、サッカーと連携したまちの魅力向上を行ったという理解で良いか。

担当課：33,244千円については寄附を取り崩して使ったわけではない。あくまで寄附は建設のため受領したものであるが、昨年度使った事業費については、基本計画や、土地の不動産鑑定費用。

委員長：157,510千円は令和4年度中に受けた寄附という理解で良いか。

担当課：そのとおり。

委員長：令和4年度中に受領した寄附金は基金へ積み立てたと(資料に)書いてあるが、その基金から33,244千円は出てきたということか。

担当課：そうではない。この事業における寄附は、スタジアムの建設費として募集しており、スタジアムの建設が令和5年度から着手というところで、前段階で寄附を募っていたもの。今集めている寄附金は、まだ執行していない。企業版ふるさと納税は、複数年度にわたって受領した寄附金を基金に積み立て、一気に執行する運用ができる制度になっている。

委員長：(要素事業②については)これは(事業費)4,114千円のうち、(企業から受領した)100千円が使われているということか。

担当課：こちらについては、そのように使われている。

委員長：(要素事業③については)事業費25,790千円となっているが、これは人材派遣を受けている事業の、形式的な予算のことをいっているだけのことか。

担当課：お見込みのとおり。

**<委員会の評価>** (「妥当」、「概ね妥当」、「要検討」の分類により評価)

**「妥当」**

#### **案件4. その他**

---

事務局：次回の行財政評価委員会では、河内長野市第5次総合計画の各施策に対する評価を予定している。今年度は評価対象重点施策として、福祉教育分野から施策6「地域福祉の推進」、施策10「健康づくりの推進と医療体制の充実」、施策14「青少年の健全育成の推進」の3施策が評価対象となる。開催時期については今年10月下旬～11月頃を予定。

委員長：ご意見・ご質問はあるか。



各 委 員：(特になし)

事 務 局：評価いただいた事業は、委員のご意見をもとに、今後の施策の展開、事業の改善に努める。  
また、評価結果は、事務局で取りまとめて、後日、市ホームページで公表を予定している。  
その際、評価結果の取りまとめ、公表方法は事務局に一任いただいてよろしいか。

委 員 長：事務局に一任する。

## 河内長野市行財政評価委員会 委員名簿

任期 令和5年8月～令和7年3月

No.	選出区分	氏名	所属等
1	委員(学識経験者)	<small>ナカガワ</small> 中川 <small>イクオ</small> 幾郎	帝塚山大学名誉教授
2	〃	<small>オカジマ</small> 岡島 <small>カツキ</small> 克樹	大阪大谷大学人間社会学部教授
3	〃	<small>ハシテラ</small> 橋寺 <small>トモコ</small> 知子	関西大学環境都市工学部准教授
4	委員(各種団体)	<small>イデ</small> 井戸 <small>ヤエコ</small> 八重子	河内長野市商工会女性部
5	委員(市民)	<small>マツモト</small> 松本 <small>ヒロヒサ</small> 拓久	長野小学校区まちづくり会議